

(国語)

自分の思いや考えを伝え合える子どもを育てる
～読むために書く・話すために書く～

大阪市立生江小学校 沼田良子・結家朋美・石川朱梨

1. 研究主題設定の理由

本校では、教育目標「人権尊重の精神と態度を養い、明るくたくましく生きる子どもを育てる」ことをめざし、「命と人権を大切に、共に生き、共に学び、励まし合う子」に育つよう日々の教育活動を進めている。

5年前から、研究教科を国語科とし、学習意欲の向上を目指し、個に応じた指導法や成就感を実感できるような指導法を工夫し、国語科の基礎的な研究を進めてきた。

研究を進めていく上で、個人差のある「読み」を学級全体の「読み」として高めるために対話し、交流する活動を授業の中に組み入れることにした。となりの友だち、あるいはグループで対話し、対話したことを学級全体で交流し学び合える指導法を推し進めてきた。

さらに、児童の実態に応じた学習形態・指導方法・支援の仕方や評価の工夫により、いきいきとした表情で主体的に学習に取り組もうとする児童が増えた。しかし、

○互いの考えを交流し、そのことにより考えがより深まったと実感できるような対話・交流のありかた

○対話のもととなる自分の考えを書く力をつける指導法の工夫が課題として残った。

本年度は、この課題の解決を目指して、さらに研究を重ねていくことにした。

2. 研究の趣旨

自分の思いや考えを伝えるには、各自が自分の意見を持つ時間が必要である。その後、友だちの考えを聞き、自分の考えと比較する中で新たな気づきを生み、児童はまた一つ新たな認識を育てることにつながると考えた。そこで本年度は、ふり返りの時間も大切にしたいと考え、1時間の授業の中で下のような流れを取り入れることにした。

①課題を知る。

②読み取ったことを伝え合うための準備をする

自分の考えを整理する

③対話・交流

自分の考えと比べたり感想を持ったりしながら考えを伝え合う

④ふり返る

伝え合った事柄をふり返り、自分の考えをよりよいものにする

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

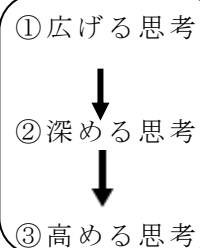
視点① 読み取ったことを伝え合うための効果的な書く活動のあり方

○ 読んだ教材全体に関係づけて書く。

- 教材文の読みを深めるために書く。
- 教材文の表現の仕方を取り入れて書く。

視点② 交流を深める工夫

- 書くための意欲を持つために、学習活動の目的と内容を見通せるようにする。また、児童が主体的に追究・解決したいと思う課題を設定する。
- 書くための技能を身に付けるために、自分の言いたいことをどのように言葉として表現し、どのように文章としてまとめあげていくかという技能を身に付けさせる。
- 学年間のつながりをもって指導できるよう、聞き方・声のものさしなどを各教室に掲示する。
- 話し合い活動を活発にするために、ペア→グループ→全体と交流の場を広げることを基本とし、児童が段階を追って考えを広げたり深めたりすることができるようにする。学びの目標として、低学年は①ができるように、中学年は②ができるように、高学年は③ができるように目指す。



視点③ 力をつけることができたかをふり返ることのできる評価のあり方

- 座席表などを用いて、児童の考えを把握する。
- 時間の終わりに、友だちと交流したことで、互いのよさや足りなかったことなど気づいたことをノートに書き、ふり返る時間を持つ。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 教室横の掲示・板書の写真・動作化や場の再現など、視覚的な支援をすることにより書きたいという意欲が高まった。
- 文型や書く時のポイントを提示し、書き出しをスムーズにすることができた。
- お面をつける・お店屋さんになる・タブレット端末を使用するなど、発表の仕方を工夫することにより、自分の考えをすすんで話すことができた。
- 「隣の友だちの感想を聞いて、『すごいな』と思った人を紹介しましょう」と、声をかけたり、名前カードを黒板にはったりすることで、ペアから全体へ自然な流れで交流することができた。
- 交流の観点を明確にすることで、活発に意見を言うことができた。
- 交流班の構成を工夫することにより、自分の考えを深めることができた。
- 消しゴムを使わず横に書き直すことにより、交流した効果を残すようにした。
- 低学年は、ふり返りを書く際、友だちと自分の考えを比べてどう思ったかを書くように促し、交流することの良さに気づくことができた。中・高学年は、交流を通して分かったことを書くようにした。自分の考えの変容や新たな気づきなどを書く児童が増え、交流の成果を実感できた。

(2) 今後の課題

- 国語科で学んだ基礎的・基本的な知識や技能を他教科での言語活動にも生かせるようにしていく。
- 児童が自分の学びをふり返り、今後の課題を的確にとらえられるような評価のあり方を、さらに工夫していく。